

長期戦略:テーマ 「研究ブランドの確立」

 提出日 2020年 11月 25日 担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(2)-② 「核となる研究群」を育成し、さらに進化させる仕組みの構築(インスティテュート制度)	2019年度	2021年度	必要なし	不要
内容 ≪核となる研究群(成果を積み上げた「高い実績のある研究」と大学が特定した「戦略的な研究」:単体研究の場合も有り)≫を本学の研究ブランドとして確立させるため、それらの研究へ既存の学内研究費や間接経費等を原資とした資金を投入し、物的・人的支援を強化する仕組み(インスティテュート制度)を構築する。 【先行事例への試行的な資源投入】 構築する仕組みの最適化を図るため、先行事例(「高い実績のある研究」)に試行的に資源投入を行い、課題の抽出を行う。 【資源投入の仕組み構築】 先行事例への試行的な資源投入により抽出した課題を分析し、真に必要な物的・人的等の支援を検討し、最適な資源投入の仕組みを構築する。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	【先行事例への試行的な資源投入】課題が抽出できたか	先行事例への試行的な資源投入により課題が抽出されたか否か		
指標2	【資源投入の仕組み構築】仕組みが構築できたか	長期戦略の指標達成を主眼に置いた資源投入の仕組みが構築されたか否か		
指標3				

目標1<指標1>【先行事例への試行的な資源投入】課題が抽出できたか

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	対象となる先行事例の選定及び該当研究者から要望をヒアリング	要望に応じた資源投入の実施	資源投入実施の結果検証による課題の抽出(資源投入は引き続き実施)	(指標2へ統合)		
実績	先行事例を1件選定し、研究者のヒアリングを行った					

目標2<指標2>【資源投入の仕組み構築】仕組みが構築できたか

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	指標1により抽出した課題を分析し、最適な資源投入の仕組み案を検討・策定	導入・実施		
実績	—					

目標3<指標3>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
先行事例への試行的な資源投入	策定段階	対象となる先行事例の選定及び該当研究者からの要望ヒアリング	要望に応じた資源投入の実施	資源投入実施の結果検証による課題の抽出（資源投入は引き続き実施）	(指標2へ統合)	
	2021年3月末段階	—	—	—	—	
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2021年3月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
資源投入の仕組み構築	策定段階	—	—	指標1により抽出した課題を分析し、最適な資源投入の仕組み案を検討・策定	導入・実施	実施
	2021年3月末段階	—	—	—	—	
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2021年3月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019 年度 承認	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度	2023 年度	2024 年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019 年度 承認	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度	2023 年度	2024 年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	【指標 1・2】2019 年 12 月 20 日の学部長会で本件の試行対象として理工学部の長田典子教授の感性価値創造研究プロジェクトを選定し、「インスティテュート」として新たな施策を試行した。具体的には「拠点運営費」という予算を創設し、そこへの資源投下に加え、自身で獲得した資金を研究拠点の運営に使用できる仕組みを考案した。これにより、外部研究プロジェクトの採否により生じる時間的ギャップを埋めることが可能となり、研究グループの生産性向上が期待できるようになった。
2020 年度	
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	「対象となる先行事例の選定」に向けて、2019 年 9 月の当機構内の会議に素案を上程する予定。承認が得られた場合、速やかに実行し、課題の抽出と仕組みの検討を進める予定。
2020 年度	2019 年度に選定したプロジェクトの試行による課題抽出を継続するとともに、次のプロジェクトを育成するための仕組み作りにも着手する。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	試行的な資源投入の実施を認めます。
2019 年度	試行的な資源投入の実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2020 年度	試行的な資源投入の実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら獲得した資金を研究運営に直接使用できる「拠点運営費」を設けることで、大型プロジェクトにおける研究者の継続性を確保できた。 ・大型プロジェクトから研究ブランドへ確立させるべく、「インスティテュート制度」における支援内容を充実させる必要がある。 	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科学系の大型研究プロジェクトの選定・支援方策の検討

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	